

離島漁業再生支援交付金

—第4期対策活動事例集—

【離島漁業再生事業交付金】

1. 海水ブロワ及び海水冷却器等の導入による流通体制改善
天売焼尻漁業集落（北海道羽幌町）
2. 飛島産サザエの魚価単価向上に向けた取組
飛島地区漁業集落（山形県酒田市）
3. 未利用漁獲物の地域活用プロジェクト
御蔵島村漁業集落（東京都御蔵島村）
4. 食害生物駆除
粟島浦漁業集落（新潟県粟島浦村）
5. キャベツサザエ事業
高千津漁業集落（新潟県佐渡市）
6. 被災後の共同出荷を目指した流通体制改善
舩倉島漁業集落（石川県輪島市）
7. 養殖ワカメの加工体験
鳥羽市離島漁業集落（三重県鳥羽市）
8. 鮮魚等の販売イベントの実施
坊勢漁業集落（兵庫県姫路市）
9. キジハタ・クエの種苗放流
西ノ島町全域漁業集落（島根県西ノ島町）
10. ヒジキ加工品の生産・販売
桂島漁業集落（山口県岩国市）
11. アカモクの無料配布
伊島漁業集落（徳島県阿南市）
12. 種苗放流による水産資源の維持・増大
上怒和漁業集落（愛媛県松山市）
13. サワラの加工品製造・販売
玄界島漁業集落（福岡県福岡市）
14. 潜水器を用いたムラサキウニの漁獲による駆除
神集島漁業集落（佐賀県唐津市）
15. ヒジキ等の湾内養殖に向けた栽培試験
度島地区漁業集落（長崎県平戸市）
16. イカの産卵場・育成場の整備
青島漁業集落（長崎県松浦市）

- 1 7. 植食性魚類対策による核藻場造成
勝本漁業集落（長崎県壱岐市）
- 1 8. 磯焼け対策事業（マフノリ）
久賀島漁業集落（長崎県五島市）
- 1 9. 地域漁業魅力発信の取り組み
江島平島漁業集落（長崎県西海市）
- 2 0. 長崎大学との連携による磯焼け対策の研究
有川地区漁業集落（長崎県新上五島町）
- 2 1. 水産加工品バザー
佐世保市黒島漁業集落（長崎県佐世保市）
- 2 2. ハモの活かし箱出荷
大入島漁業集落（大分県佐伯市）
- 2 3. 水産加工品の開発及び販路開拓
島野浦漁業集落（宮崎県延岡市）
- 2 4. イワガキの養殖及び販路拡大
幣串漁業集落（鹿児島県出水郡長島町）
- 2 5. 屋久島での魚食普及活動
安房漁業集落（鹿児島県屋久島町）
- 2 6. 選別台・クーラー運搬台の作成
笠利地区漁業集落（鹿児島県奄美市）
- 2 7. 海水冷却装置を使用した冷却効果比較試験
えらぶ漁業集落（鹿児島県和泊町）
- 2 8. 鮮魚輸送経費削減対策
石垣市漁業集落（沖縄県石垣市）
- 2 9. なまこ類種苗放流
勝連漁業集落（沖縄県うるま市）

【新規就業者特別対策事業交付金】

1. 磯根漁業（ウニ・コンブ等）
仙法志漁業集落（北海道利尻町）
2. かつお・マグロ釣り漁業など
父島漁業集落（東京都小笠原村）
3. イサキ釣り、延縄、引縄漁業など
小値賀漁業集落（長崎県小値賀町）

流通体制改善

海水ブロワ及び海水冷却器等の導入による流通体制改善

天売焼尻漁業集落(北海道羽幌町)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 89世帯

○取組の概要

タコ、ナマコの出荷時の流通体制改善を図るため、鮮度維持や効率的な輸送体制の確立に取り組み、魚価の安定を図った。



【本取組に至った経緯】

- 当離島における漁業の中心魚種となるタコ、ナマコについては、小規模離島であることから出荷方法が限られていた。
- タコについてはフェリー輸送時の鮮度確保の対策、ナマコについては出荷日が操業翌日になってしまうことから、その間の冷却が必要だった。
- これらの課題を解決し、魚価を安定させるため、鮮度維持や効率的な輸送確立に取り組んだ。

【取り組む際に生じた課題】

- 当町の離島と本土の輸送については、海上輸送に依存している。
- 出荷の際は長時間保管する必要があるため、鮮度維持に課題を抱えていた。

【生じた課題への対応方法】

- 本事業により鮮度保持に取り組むと共に、搬送用の大型水槽を導入し、出荷体制を整え、効率的かつ品質確保の図られた出荷につながった。

【取組の効果】

- 海水ブロワ及び海水冷却器等の導入により、好環境下での保管ができ、鮮度を保持し出荷することが可能になった。
- 一部魚種において付加価値が向上し、魚価の安定が図られた。

【今後の展望】

- 鮮度の維持が可能となったことから、更なる販路拡大に努め、魚価の高値安定を目指す。
- ALPS処理水放出に伴う輸出規制により一部魚種の価格が低迷したが、本事業の継続により回復を図る。
- 安定した水揚の取組についても検討し取り組んでいく。

【対象となった経費】

- 海水ブロワ、海水冷却器

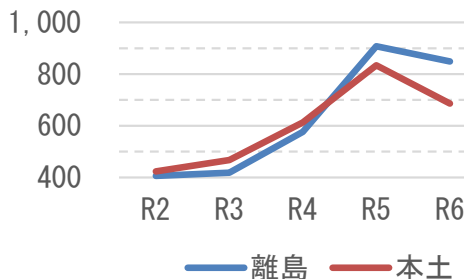


表1: タコの単価の推移(円/kg)

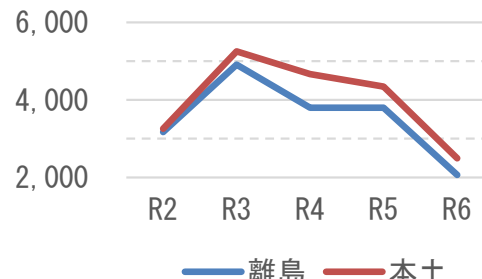


表2: ナマコの単価の推移(円/kg)

成功のポイント

- 北るもい漁業協同組合の支援もあり、漁業者が水産物の品質確保という目的のため協力し取り組むことができた。

種苗放流
高付加価値化
漁場監視

飛島産サザエの魚価単価向上に向けた取組

飛島地区漁業集落(山形県酒田市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 52世帯

○取組の概要

飛島産サザエの魚価単価を向上させ、漁業者の所得向上、水揚金額の維持を図る。



【本取組に至った経緯】

- 飛島で水揚げされるサザエは定期船での運搬が必須であるにも関わらず、本土側と比較して単価が低い傾向にある。飛島の根幹の産業である漁業を維持していくためには、水産物の付加価値を高める取組を行い、魚価単価を向上させていく必要がある。

【取組の効果】

- 平均漁業所得の向上
令和2年度 198千円
令和6年度 424千円
- サザエ漁獲量及び魚価単価
令和2年度 11.6トン 609円/kg
令和6年度 29.6トン 748円/kg

【取り組む際に生じた課題】

- 継続した種苗放流によりサザエの資源量増加を図っていたが、サザエの魚価単価がなかなか上昇しない。

【今後の展望】

- 漁獲量が多く、飛島のシンボルでもあるサザエをブランド化し、市内外に販路を拡大させていく。

【生じた課題への対応方法】

- 漁獲したサザエを数日間蓄養することで、砂抜きや悪い個体の除去が進み、魚価単価向上に繋がった。併せて、密漁を防止するため監視活動も行った。

【対象となった経費】

- 種苗の購入費、活魚箱の購入経費

成功のポイント

- 継続的に実施してきた種苗放流の効果による水産資源の増殖
- これまで踏襲されてきた出荷方法の見直し

流通体制 改善

未利用漁獲物の地域活用プロジェクト

御蔵島村漁業集落(東京都御蔵島村)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 22世帯

○取組の概要

カンパチ・キハダなど出荷できない未利用魚を切り身加工し、島内の学校・団体の弁当・給食等で活用することにより、漁業収入の増加につながった。



【取り組むに至った経緯】

- 貨客船の接岸率が低く、島外出荷できないことがある。一方、島内の鮮魚消費量にも限りがあり、出荷・販売できない漁獲物が生じている。
- 冬季は水揚量が少なく、鮮魚販売だけでは島内需要に対応できない。

【取り組む際に生じた課題】

- 未出荷魚を活用をするためには、加工と販売先開拓が必要。
- 島内の大口需要家である学校等は衛生管理基準等が厳しく、販売には加工体制等の整備が必要。

【生じた課題への対応方法】

- 本事業の活用により、鮮魚加工台を整備した。
- 学校の栄養士等と課題を共有し、未利用漁獲物の活用方法を検討した。

【取組の効果】

- 鮮魚加工品の島内売上高
令和2年度 92千円
令和6年度 181千円

【今後の展望】

- 原材料、加工人材を確保し、加工量の増加を図る。
- インターネット等を活用し、島外への加工品販売を目指す。

【対象となった経費】

- 加工施設利用費、加工用資材費、加工原料費

成功のポイント

- 地域一体となった活用方法の検討
- 島民にもっと島の魚を食べてもらいたいという熱意を関係者で共有

漁場の 管理・改善

食害生物駆除

粟島浦漁業集落(新潟県粟島浦村)

実施期間:令和5年度、令和6年度

漁業世帯数:58世帯

○取組の概要

藻場における食害生物の駆除を行い、藻場環境の回復を図るとともに、駆除した食害生物の有効活用を検討・試行した。



【本取組に至った経緯】

- 藻場環境の回復と資源の増大を図るため、継続して食害生物の駆除に取り組んでいるが、令和5、6年度は、それと併せて駆除した食害生物の有効活用について検討・試行した。

【取り組む際に生じた課題】

- 駆除した生物の処分方法や出荷する場合の取引先など

【生じた課題への対応方法】

- 島外の卸売業者に相談し、駆除したコシダカガンガラの島外出荷を試行した。

【取組の効果】

- 駆除したコシダカガンガラを島外へ出荷し、有効活用が図られた。
※ 令和5年度 124kg 42千円
令和6年度 294kg 80千円
また、令和6年度は駆除したサザエの一部を別事業のサザエつかみ取りイベントで使用し、有効活用を図った。

【今後の展望】

- コシダカガンガラは取引単価が低く、島外出荷の場合には運搬費もかかる。島内直売所での販売なども検討していく。

【対象となった経費】

- 人件費、運搬費

成功のポイント

- これまで無駄になっていた駆除後の食害生物について、有効活用が図られた。
- コシダカガンガラは粟島の周辺海域に大量に生息しているものの、これまであまり利用されてこなかったため、地域資源の有効利用にもつながる。

キャベツサザエ事業

高付加価値化

高千漁業集落(新潟県佐渡市)

実施期間:令和5年度、令和6年度

漁業世帯数:49世帯

○取組の概要

価格の安いサザエを蓄養・出荷調整する際に未利用・低利用野菜を給餌することによりサザエの単価向上を図った。



【本取組に至った経緯】

- 高千漁業集落において出荷の多くを占めるサザエの市場価格が低迷した時に高付加価値化を図るため、ウニ養殖で用いられるキャベツ等の野菜を与えた通称キャベツサザエ(仮)を蓄養し販売することとなった。

【取り組む際に生じた課題】

- 蓄養の人件費、販売に係るロゴシールや箱代等の資材費、事業を行う際の防犯面、サザエの規格

【生じた課題への対応方法】

- 人件費や資材費は当交付金を活用により実施。防犯面は、岸壁でなく湾内の筏を活用。規格については集落内で協議しながら試行錯誤している。

【取組の効果】

- 野菜類を給餌し、蓄養したサザエの肉質が軟化し味わいにより変化がみられることが分かった。
- 飲食店やホテルに販売を開始しており少しずつ利益が得られるようになってきている。

【今後の展望】

- 個人・家族向けに販売できるよう通販アプリ等を活用し販路拡大をしていく。
- 需要に応じた出荷を可能とするべく本事業に携わる人材を増やしていく。

【対象となった経費】

- サザエ購入費、人件費、傭船料等

成功のポイント

- 作業が簡単であること。
- 近隣で野菜栽培が盛んであり、未利用野菜を提供してもらえるため、地域一体として取り組めること。

流通体制 改善

被災後の共同出荷を目指した流通体制改善

舢倉島漁業集落(石川県輪島市)
実施期間: 令和2年度～令和6年度
漁業世帯数: 46世帯

○取組の概要

- ・被災により定期航路が利用できない状況で、漁獲物運搬用の共用タンクや荷揚げ用ゲージを導入した。
- ・漁業者の自主的な取組とあわせ、流通体制を再構築した。



【本取組に至った経緯】

- 令和6年能登半島地震により、舢倉島においても甚大な被害を受け、定期航路による共同出荷が困難になり、流通体制を新たに構築する必要性が生じた。

【取り組む際に生じた課題】

- 漁協職員がやむを得ず避難することになり、常駐が難しくなった結果、漁協の業務が一部実施されないこととなった。

【生じた課題への対応方法】

- 漁業者が本交付金の活動とは別に、可能な範囲で自主的に鮮魚の分別など漁協職員の業務を一部担うことで対応した。

【取組の効果】

- 定期航路の未復旧により、通常の共同出荷方法が閉ざされていた中、本交付金を活用して運搬用の共用タンクや荷揚げ用ゲージを導入し、漁船による共同出荷を実現した。これらの取組は集落内の漁業者の漁業活動意欲の再起にもつながった。

【今後の展望】

- 定期航路の被災前と同様の就航や、被災した荷さばき所や冷蔵施設の完全復旧に至っていない中、集落漁業者の活動意欲衰退を防ぎつつ、漁業活動を再興していく。

【対象となった経費】

- 漁獲物共同運搬用1トンタンク、荷揚げ用ゲージ(鉄製カゴ)

成功のポイント

- 地震被害の影響で漁獲物を運搬することにも使用されていた定期航路の復旧目途が立たない中、早急に漁業者のニーズに沿った共同出荷体制の構築を図った。

養殖ワカメの加工体験

漁業体験

鳥羽市離島漁業集落(三重県鳥羽市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 251世帯

○取組の概要

後継者対策及び繁忙期における漁家支援対策として、漁業に関心のある方を対象とした漁業体験事業を実施した。



【本取組に至った経緯】

- 鳥羽市答志島で養殖されたワカメの多くは、塩蔵ワカメに加工され、出荷されている。塩蔵ワカメに加工する過程には、ワカメの葉と茎を分ける作業など、簡単ではあるが、手間のかかる作業がある。この作業を漁業体験にすることで、不足している人手を確保し、労力を軽減するための一助として取り組む。

【取り組む際に生じた課題】

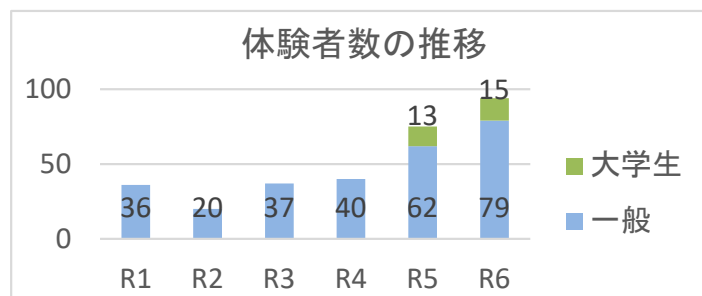
- 体験者の宿泊先の手配や体験者の受け入れ、スケジュール管理等。

【生じた課題への対応方法】

- 一日の受入人数を制限し、宿泊先については、地元旅館(2件)に振り分け。
- なるべく繁忙期に多くの体験者が参加してくれるようスケジュールを管理し、全受入漁家に体験者を振り分け。
- 令和5年度からは大学生にも体験に参加してもらうことで、漁業者の労力を軽減。

【取組の効果】

- 令和6年度においては48日間体験事業を実施、合計94人の体験者が参加。
- 体験者数の増加には、コロナ禍の終息だけでなく、漁協HPへの掲載や受入漁家による費用の一部負担などの従来からの取組に加え、これまでの体験者(リピーター)から知人などへの紹介、口コミが影響したと考えられる。



【今後の展望】

- 人手不足・労力を軽減するため、取組を継続。

【対象となった経費】

- 人件費、会場使用料

成功のポイント

- 漁業版ワーキングホリデーの活用
- 漁業者と参加者が持つニーズのマッチング

販路拡大

鮮魚等の販売イベントの実施

坊勢島漁業集落(兵庫県姫路市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 381世帯

○取組の概要

華姫さわら、ぼうぜ鯖等の当地のブランド水産物のPRのため、販売イベントを実施した。



【本取組に至った経緯】

○坊勢島漁業集落では、サワラ、ハモ、サバ等の水産物のブランド化を推進して販路拡大を図っているが、その知名度は低く、十分に認知されているとは言えない状況であった。そこで販売イベントを行い、ブランド水産物の知名度向上と販路拡大に取り組むことにした。

【取組の効果】

○華姫さわら祭り売上高
令和4年度 2,767千円
令和6年度 3,088千円

○ぼうぜ鯖祭り売上高
令和3年度 3,641千円
令和6年度 4,111千円

【取り組む際に生じた課題】

○知名度が充分ではなかったため、来場者数の確保が課題であった。また、イベント会場である妻鹿漁港まえどれ市場への交通アクセスの悪さも課題であった。

【今後の展望】

○今後も同様のイベントを継続し、ブランド水産物の知名度の更なる向上と、販路拡大を推進したい。

【生じた課題への対応方法】

○チラシの配布や新聞広告掲載などにより、イベントの周知に努めた。また、姫路駅から会場へのシャトルバスも用意し、アクセスの向上に努めた。

【対象となった経費】

○人件費、会場設営費、広告費、無料試食食材費等

成功のポイント

- ブランド水産物を用いた試食品の無料配布
- 料理教室、バルーンショー、タッチプールなども実施し、イベントとしての楽しさも考慮。
- ブランド水産物に親しんでもらうための漁業漁場見学の実施



キジハタ・クエの種苗放流

種苗放流

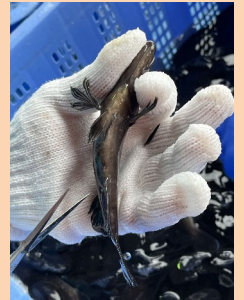
西ノ島町全域集落(島根県西ノ島町)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 266世帯

○取組の概要

継続して行っているキジハタ種苗放流に加え、令和3年度からクエ種苗放流を実施。令和4年度からは漁業者による放流種苗ヒレカットの取り組みを行うなど、漁業者の資源管理への意識向上にも取組んだ。



【本取組に至った経緯】

- 魚価の高いキジハタ・クエを放流することで水揚げ高の向上を図るため取組を行った。

【取組の効果】

- 放流魚種について水揚げ高・水揚げ量ともに上昇し、令和6年度には大きく実績が伸長した。

(単位: 漁獲高/千円・漁獲量/kg)

魚種	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
キジハタ	漁獲高	1,564	1,779	1,801	2,848	3,838
	漁獲量	979.1	1,123.2	990.4	1,513.2	2,035.2
クエ	漁獲高	2,575	1,470	2,203	2,587	4,736
	漁獲量	1,000.2	640.8	766.7	862.0	1,295.9

【取り組む際に生じた課題】

- 毎年継続して行っていくにあたり放流個所の選定
- ヒレカット実施方法の情報不足

【今後の展望】

- 引き続き、高単価種苗の放流を継続するとともに、効果的な放流効果調査方法を検討する。

【対象となった経費】

- 種苗購入費、傭船料、日当

成功のポイント

- 漁業者自らが取り組む意思を持ち、魚種・放流個所・効果検証に取り組んだこと。

高付加価値化

ヒジキ加工品の生産・販売

柱島漁業集落(山口県岩国市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 53世帯

○取組の概要

以前より評判の良かったヒジキ加工品の品質をさらに安定させつつ、増産体制を整備した。



【本取組に至った経緯】

- 安定した品質の加工品を効率よく生産したい。
- 海に出られない集落構成員も漁業へ携わってもらいたい。

【取組の効果】

- ヒジキ加工品の売上高
令和6年度 1,400千円(完売)
生産が追い付かず さらに多数のバックオーダーを抱えている。

【取り組む際に生じた課題】

- 乾燥の仕上がりが安定しない。
- 人手不足

【今後の展望】

- 作業人員を確保し、増産する。
- 近隣県以外にも販路を拡大したい。

【生じた課題への対応方法】

- 乾燥機内でのヒジキの配置や温度などを試行錯誤した。
- 集落構成員へヒジキ加工研修を実施。

【対象となった経費】

- 乾燥機購入代金、脱水機購入代金、人件費、ラベル印刷代金、電気料金、簡易水道料金、プロパンガス料金

成功のポイント

- 生産効率と品質、両方の改善をはかるため、従来の天日干しによる製造方法にこだわらず、思い切って新しい設備を導入した。
- 妥協することなく試行錯誤を繰り返し、加工時の温度設定等の最適解を得た。

低・未利用資源の活用

アカモクの無料配布

伊島漁業集落(徳島県阿南市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 41世帯

○取組の概要

低・未利用資源であるアカモクを加工し、阿南市内にある観光案内所(光のまちステーションプラザ)にて無料配布した。



【本取組に至った経緯】

- 同市内に住んでいながら伊島を訪れたことがない市民が多数のため、市内の住民向けの伊島の水産物提供を実施し「伊島及び伊島の水産物のPR」を狙った。
- 提供する水産物に関しては低・未利用資源であるアカモクを使用。アカモクは湾内や航路に自生しており漁船のスクリューに巻き付くなどの理由から定期的に撤去していた。近年アカモクの栄養価が注目されていることから本事業で活用するに至った。

【取り組む際に生じた課題】

- アカモクの収穫量が少ない年度もあり、年度ごとに配布できる個数に振れ幅があった。
- 集落構成員の減少及び高齢化によりアカモクを製品化する作業人員が不足した。

【生じた課題への対応方法】

- 漁協の冷凍庫を利用し、加工してから長期保管を可能にすることで、収穫から加工期間にゆとりを持たせた。

【取組の効果】

- アカモクが以前から繋がりのあった企業や高校の目にとまった。現在商品化できないか企業・高校と検討中である。

【今後の展望】

- 企業・高校との連携を継続し、商品化していきたい。
- また他の低・未利用魚についてもアカモクの進捗を参考にしながら活用していきたい(アイゴの干物等)。

【対象となった経費】

- 人件費、交通費、原材料費、パック・ラベル等

成功のポイント

- 収穫から加工、配布までを伊島で完結することで、新鮮かつ低コストで配布を実施することができた。
- 体調不良等により人員が不足した際は、普段から集落内で関係性が構築されているので、代替りの人員の確保等がスムーズに行えた。

種苗放流による水産資源の維持・増大

種苗放流

上怒和漁業集落(愛媛県松山市)
実施期間: 令和2年度～令和6年度
漁業世帯数: 15世帯

○取組の概要

漁場の生産力向上のため、アカウニなどの種苗放流を効果的に実施した。



【本取組に至った経緯】

- 上怒和集落の主要な漁業である潜水・採介藻漁業の漁獲量が低迷しているため、種苗放流による資源増加に取り組んだ。

【取り組む際に生じた課題】

- 放流後の生残率が低く、漁獲まで繋がらない可能性がある。

【生じた課題への対応方法】

- アカウニをタコツボへ入れて放流したり、一部を中間育成後に放流することにより、放流効果を高め、漁獲に繋がるように努めた。

上怒和集落アカウニ種苗放流実績(個)

R2	R3	R4	R5	R6
—	15,000	10,000	10,000	6,200

【取組の効果】

- 近隣の他集落も種苗放流を実施していることもあり、漁獲量は上昇傾向にある。

アカウニ漁獲量(旧中島町地域)(kg)

R1	R2	R3	R4	R5
1,828	621	2,234	2,039	3,621

中国四国農政局調べ 市内漁協漁獲量参考

【今後の展望】

- アカウニ以外にもサザエやメバルなど、他の魚種についても放流を実施していくことで、安定した漁場の生産力向上に努めていきたい。

【対象となった経費】

- 人件費、種苗購入費、その他資材費等

成功のポイント

- 種苗放流の仕方を工夫して実施したことで、漁獲量の上昇に繋がったと考えている。

サワラの加工品製造・販売

簡易加工

玄界島漁業集落(福岡県福岡市)
実施期間: 令和2年度～令和6年度
漁業世帯数: 33世帯

○取組の概要

玄界島で漁獲の多い、サワラを加工した商品開発を実施し、島外のイベントなどで販促活動を行った。



【本取組に至った経緯】

- 玄界島では、サワラが多く漁獲されるが、平成28年頃、魚価が低かったことから、安定した漁業収入や集落の活性化を図るため、女性部を中心に、加工品の開発に取り組んだ。また、さわらめしは、玄界島で祭事に食べられる郷土料理で、加工品を製造・販売することにより、島の魅力を伝える特産品になることが期待された。

【取り組む際に生じた課題】

- 保存料の規定等から、もともと使用していた調味料で作ることができず、いくつかの調味料を取り寄せて、味を再現することに苦労した。また、開発当初、販促活動に慣れておらず、販売などに苦労を重ねた。

【生じた課題への対応方法】

- 粘り強く試作を重ね、納得するおいしい味を目指した。福岡県漁連を通じ、「協同組合間連携地域活性化プロジェクト」において、関連する店舗に商品を置いてもらうなど、商品取扱の機会を創出した。あわせて、積極的に島外のイベントに出店することで、商品のPRや商談を行った。

【取組の効果】

- 天然ワカメに次ぐ島の特産品作りとして、集落で新たな雇用機会を創出。日々の漁獲量や魚価に応じて製造することで、安定した収入につながっている。

【今後の展望】

- 継続的な活動の実施

【対象となった経費】

- 人件費、資材費等



成功のポイント

- 集落一体となり、島外のイベントに積極的に参加し、商品のPRに取り組んだこと。

漁場の 管理・改善

潜水器を用いたムラサキウニの漁獲による駆除

神集島漁業集落(佐賀県唐津市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 42世帯

○取組の概要

ムラサキウニによる食害を防ぐため、第4期活動より潜水器を用いた漁獲による駆除を行い、藻場の再生を図った。



【本取組に至った経緯】

- 海水温上昇により、ムラサキウニが急激に増加し、駆除が追い付かず、藻場が著しく減少している状況であった。

【取り組む際に生じた課題】

- これまで行ってきたムラサキウニの駆除は、素潜りで潰す方法が主であり、より効率的な駆除方法が求められていた。
- 対策の1つとして、潜水器を用いた漁獲による駆除が考えられたが、これまで松浦海区では潜水器漁業の許可を取得した事例がなかった。

【生じた課題への対応方法】

- 許可取得に向けた意見交換や調整作業を関係者で積極的に行い、令和6年に松浦海区で初となる潜水器漁業許可を取得した。
- 駆除したムラサキウニの有効活用を模索した結果、構成員の協力を経てウニ瓶の製造を行うことになった。

【取組の効果】

- 漁獲によるウニ駆除量 400kg
- 漁獲・駆除したウニの加工品売上高 222,794円

【今後の展望】

- 1回あたりの漁獲によるウニ駆除量を300～500kg程度を維持し、駆除ウニを加工品として都市圏へ販売することを想定している。
- 潜水器漁業の確立を図り、玄海地区全体への波及効果を促す。

【対象となった経費】

- 人件費、用船費、ボンベリース費、ボンベチャージ費、資材費、材料費

成功のポイント

- 松浦海区で初となる潜水器漁業許可を取得したことで、効率的な漁獲による駆除を実施できたこと。
- 漁業集落と自治体による意見交換会を開催し、藻場保全への課題の共有や解決策の検討を行ったこと。

新規養殖業 への着業

ヒジキ等の湾内養殖に向けた栽培試験

度島地区漁業集落(長崎県平戸市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 24世帯

○取組の概要

ヒジキ等の新規養殖の着業に向け、港湾内で栽培試験を実施した。



【本取組に至った経緯】

- 資源が減少している海藻類の養殖に着目した。
- 波の影響を受けにくい漁港湾内での養殖に可能性を感じた。

【取組の効果】

- 構成員の海藻養殖に対する認識の変化が見られた。
- 少しずつではあるが、海域に適した海藻の選定ができた。

【取り組む際に生じた課題】

- 取り組み当初、種苗の確保や栽培方法等どのように事業を展開すればよいか、手探り状態だった。
- 種苗の安定した確保が困難だった。種苗の十分な成長が見られなかった。

【今後の展望】

- 安定生産へむけ、種苗の選定、養殖技術の向上を図る。
- 囲い網を設置する等の対策を講じ、食害防止に努める。
- 安定生産を実現し集落漁業者の所得向上に繋げていく。

【生じた課題への対応方法】

- 栽培方法や食害対策等成功している他集落へ視察研修を行った。
- ヒジキの他に別種苗(ワカメ)の栽培へ着手。
- 種苗の成長の妨げになっている原因(海水温、食害)の調査と対策を検討した。

【対象となった経費】

- 資材購入費、機械整備費、傭船料、先進地視察旅費等

成功のポイント

- 先進自治体の視察受け入れがあったこと。
- 集落の活動に平戸市漁協の協力が得られたこと。

産卵場・ 育成場の 整備

イカの産卵場・育成場の整備

青島漁業集落(長崎県松浦市)

実施期間:令和2年度～令和6年度

漁業世帯数:51世帯

○取組の概要

イカ資源の保護・育成を行うため、人工産卵床の設置による産卵場・育成場の整備に取り組んだ。



【本取組に至った経緯】

- 近年、アオリイカの漁獲量が減少傾向であることから、資源回復に向けた取組が必要と考えた。

【取り組む際に生じた課題】

- 若い集落構成員が減少し、天然柴を山から切り出すのが困難となった。
- 天然柴は葉が落ちてしまい、繰り返し利用できないため、効率的な産卵床が必要だった。

【生じた課題への対応方法】

- これまでの山から切り出す天然柴ではなく、アオリイカの産卵に適した人工イカ産卵床を導入し、アオリイカの来遊が見られる海域に設置した。

【取組の効果】

- モニタリングにより人工産卵床への産卵を確認することができた。

【今後の展望】

- 今後も継続して実施することで、アオリイカの資源回復に繋げたい。

【対象となった経費】

- 資材費、人件費、傭船料等



青島集落 イカ類の漁獲量

R2	R3	R4	R5	R6
3,698kg	4,084kg	1,572kg	4,491kg	1,604kg

成功のポイント

- 集落構成員の意識が共有され、活動に活かされたこと。

漁場の 管理・改善

植食性魚類対策による核藻場造成

勝本漁業集落(長崎県壱岐市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 202世帯

○取組の概要

磯焼けした海域に仕切り網を設置し、植食性魚類からの食害を防止することで核藻場の造成を行った。



【本取組に至った経緯】

- 壱岐等周辺海域で地元固有の海藻が全滅する恐れがあるため、網を張って保護した状態で育成を図る必要がある。

【取り組む際に生じた課題】

- 場所の選定や仕切り網の補修等の対応

【生じた課題への対応方法】

- 場所の選定に際し、関係者と相談を行い、仕切り網の破損防止のため潮間帯を避け、四方を網で囲うこととした。また、破損しているかどうかの調査について、地元漁協にも協力を得て、定期的なモニタリングを行った。

【取組の効果】

- 取組当初は、様々な失敗を重ねたが、定期的にモニタリングを行い網の修理等を行った事で令和6年度には、仕切り網の外に藻場が確認され、核藻場としての機能が発揮されるまでに回復が見られた。
- そのことにより、漁業者の藻場回復の取組意識が醸成され、植食性魚類駆除を積極的に行うようになった。

【今後の展望】

- さらなる藻場の回復の為、核藻場の造成を継続させるとともに、植食性魚類駆除をさらに積極的に行い、摂食圧のバランスを取り戻したい。

【対象となった経費】

- 人件費、傭船料、資材代

成功のポイント

- 五島市の成功事例を参考に仕切り網の中間に浮を付けるなど、網の破損防止に注力したこと。
- 地元漁協職員が積極的に事業に参画し、成功事例等の資料を集め様々な助言をしてくれたこと。

磯焼け対策事業(マフノリ)

漁場の 管理・改善

久賀島漁業集落(長崎県五島市)
実施期間: 令和2年度～令和6年度
漁業世帯数: 37世帯

○取組の概要

久賀島を代表する水産物の一つであるマフノリ増殖のため、磯洗いやジョウロを使用した手作業による種まき作業を平成29年から実施おり、第4期から人手不足や危険作業を改善するため、種まき手法を改良した。



【本取組に至った経緯】

- 海藻の生育場を整備し、海藻の減少に歯止めをかけること及び海藻を増殖させることで、所得向上に繋げることを目的として開始した。

【取り組む際に生じた課題】

- マフノリの増殖作業である磯洗いと種まきは、どちらも多くの人員と作業時間が必要であり、磯場の作業は危険を伴う。
- 潮が満ち始める僅か数時間のうちに行う必要がある。

【生じた課題への対応方法】

- 令和2年度より、高圧ポンプを用いて、船上から磯にマフノリの種を撒く手法を導入した。
- この手法により、磯洗いと種まきを短時間で効率的かつ安全に行えるようになり人手不足についても改善された。

【取組の効果】

- 従来のジョウロでの散布に比べて、10倍以上の面積に数時間で種を撒くことができる。
- 高圧ポンプの散布により、時短や安全性が確保できた。
- 令和4年度には、ながさき水産業大賞・長崎県知事賞【魅力ある漁村地域部門】受賞

	マフノリ収穫量	kg単価
R2年	177kg	2,600円
R3年	395kg	2,600円
R4年	538kg	2,600円
R5年	472kg	3,500円
R6年	521.8kg	11,000円

【今後の展望】

- 種まき作業は、マフノリの成熟に合わせなければならないため、作業者の都合で種まきの日程を調整できるように、成熟したマフノリの胞子を凍結保存する試験を実施している。

【対象となった経費】

- 人件費、備船料

成功のポイント

- 高圧ポンプを用いた種まき手法により、人手不足及び危険を伴う作業が改善されたこと。
- 高齢化及び人口減少が進む漁業集落でも継続して実施可能な技術であること。
- 本手法は他の海藻類にも応用可能であり、更なる波及効果が期待される。

情報発信

地域漁業魅力発信の取り組み

江島平島漁業集落(長崎県西海市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 29世帯

○取組の概要

Iターン者等の新規漁業就業者受入れによる漁村地域の活力向上を目指すため、地域漁業やIターンによる漁業研修生の活動内容などを動画配信した。



【本取組に至った経緯】

- 漁業就業者の高齢化、後継者不足等による就業者の確保が喫緊の課題であるため、地域漁業の魅力発信として、漁業研修を行っているIターン者の活動内容等をYouTubeで発信した。

【取り組む際に生じた課題】

- 動画配信では情報が一方通行になりがちで、視聴者との双方向コミュニケーションが難しい。

【生じた課題への対応方法】

- 漁業者の生の声に対して、視聴者のコメントや質問を受付けること。

【取組の効果】

- 地域の知名度の向上が図られた。
- 1738回の視聴があり(令和7年10月22日時点)、離島漁業の魅力などPRが図られた。

【今後の展望】

- 新規就業者確保のため、就業者フェア等を通じ後継者確保活動を継続する。また、交流の場としてSNSなどを活用したい。

【対象となった経費】

- 委託費

成功のポイント

- Iターン者である漁業研修生の活動を発信し、離島の生活や文化の魅力を伝えることで、興味を持つ人々を引き付け、地域活性化を促進することができたこと。

漁場の 管理・改善

長崎大学との連携による磯焼け対策の研究

有川地区漁業集落(長崎県新上五島町)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 115世帯

○取組の概要

長崎大学、新上五島町と連携し、磯焼けの大きな要因である食害(特にイスズミ)に着目し、研究を行う。



大学、新上五島町との連携

【本取組に至った経緯】

- 様々な磯焼け対策を講じていたが食害(イスズミ、ガンガゼ)の要因が大きいことが判明したため。

【取り組む際に生じた課題】

- イスズミは市場に出回らない未利用魚であり、廃棄されていた魚種であった為、知見が全くない状態であった。

【生じた課題への対応方法】

- 漁業者に聞き取りを行い、漁獲時期、場所等の情報収集を行った。
- イスズミの行動範囲を調べるために、漁獲されたイスズミを生簀に蓄養し、タグ打ちを行い、行動範囲等の情報収集を行った。

【取組の効果】

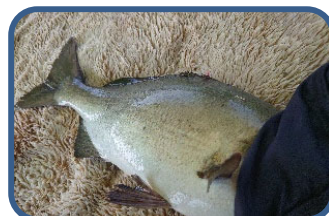
- 現時点では、タグのついたイスズミの報告は挙がっていないが、漁業者のイスズミに対する関心が高まり、漁獲の際の報告が増加した。
- 活動を行うにあたって、大学つながりで連携する組織が増加したこと。

【今後の展望】

- イスズミの習性に関する情報収集と、効率的な駆除方法の研究
- 未利用魚の有効活用として、生簀での短期畜養と給餌による身質の変化の研究

【対象となった経費】

- 人件費、用船料、消耗品費(ロープ等)



イスズミのタグ打ち風景

成功のポイント

- 漁業者への情報共有を行う事により、磯焼けに対しての意識の向上が図れたこと。
- 大学の協力、助言により、より具体的な活動を行う事ができたこと。

水産加工品バザー

販路拡大

佐世保市黒島漁業集落(長崎県佐世保市)

実施期間: 令和2年度～令和5年度

漁業世帯数: 73世帯

○取組の概要

島内外への特産品PR活動として、黒島近海で採れる魚や海藻類を使った加工品の試作・販売を行った。



【本取組に至った経緯】

- 漁業の島ではあるが、水産加工品に対する認知度が低いという課題があったため、その解消のため販売会を開催し、特産品のPR活動を行った。

【取り組む際に生じた課題】

- 販売会当日に水揚げした魚を加工販売するため、漁獲が安定しない。
- 販売会の島内外への周知方法

【生じた課題への対応方法】

- 天候や潮汐の情報をもとに、漁獲安定が見込まれるタイミングを見極め、事前に漁獲向上に努める工夫を行った。
- 島内外の企業へ、販売会ポスターの掲示や海産物出店の案内を通して周知活動を行った。

【取組の効果】

- 販売会参加者 50名(すべて完売)
- 島の水産加工品に接する機会の少ない客層に対しPRができ、海産物の魅力を発信することができた。
- 販売会参加者の生の声を聞くことができ、新たな商品開発への要望や、漁業活動家に対して期待することなど、様々な意見を聞くことができた。

【今後の展望】

- 定期的に販売会などのイベントを開催することで、島内の海産物の魅力を伝え、漁業への関心を持ってもらえるように努める。
- SNS等の活用により、幅広い世代へ島の水産製品のPRを行い、水産業への興味を持ってもらえる活動を行いたい。

【対象となった経費】

- 人件費、用船料、資材費、消耗品費

成功のポイント

- 島内の水産企業にも出店をよびかけたこと。
- 会場で特産品の試食を出来るコーナーを設けたこと。
- 様々な水産製品を出品することで、漁業集落全体で取組に参加できたこと。

流通体制 改善

ハモの活かし箱出荷

大入島漁業集落(大分県佐伯市)
実施期間: 令和2年度～令和6年度
漁業世帯数: 48世帯

○取組の概要

延縄漁業で漁獲されたハモを冷水で安静化させ、エアポンプ付きの発泡スチロール箱で活かしたまま丁寧に出荷するもの。



【本取組に至った経緯】

- 300～400 kgのハモを活魚車でまとめて運送していたが、ハモが弱ることと経費負担の大きさが課題となり、流通体制の改善を図ることとした。

【取り組む際に生じた課題】

- 機器への浸水によるエアポンプの故障やハモの咬みつきによるチューブの損傷、ぬめりによるエアストーンが目詰まり

【生じた課題への対応方法】

- エアポンプ部分に防水用のフタを装着、チューブ保護機能を持つ箱を導入、エアストーンに専用カバーを取り付け

【取組の効果】

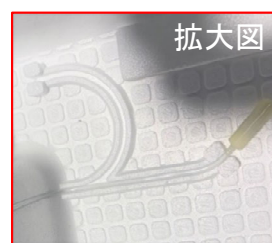
- 単価向上と料亭等への販路拡大
活かし箱出荷 2,000円/kg
市場取引単価 850円/kg
(県漁協聞き取り)

【今後の展望】

- 箱の容量増量(5 kg→8 kg)による出荷数量増加など、活かし箱での出荷を継続・拡大し、出荷体制を確立させる。

【対象となった経費】

- 活かし箱作成に係る資材費、海水冷却用の氷代



活かし箱の改良点(チューブ保護用の溝とエアストーンカバー)

成功のポイント

- 市場担当者と情報共有を行い、活かし箱の改良を重ねた点
- 商品シールによる認知度向上と小口出荷による販路の多角化
- 漁場から出荷作業地が近く、輸送時間が短い点

水産加工品の開発及び販路開拓

島野浦漁業集落(宮崎県延岡市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 45世帯

簡易加工
高付加価値化
販路拡大

○取組の概要

島内で養殖される「しまうら真鯛」と「金寿カンパチ」を使用した水産加工品(冷凍)を開発し、試験販売を経て、販路を開拓した。



【本取組に至った経緯】

- 島の基幹漁業である、まき網、まぐろ延縄、曳縄・小型延縄、定置網等の漁獲量は年々減少している。水産加工品の生産販売を行うことで漁業集落の所得向上を図ることにした。

【取り組む際に生じた課題】

- 原材料選定の際に、安価で手に入るまき網の魚を検討したが、漁獲に大きく左右されること。
- 持ち帰り時の品質低下
- 島野浦島の認知度が低いこと。
- 物価上昇に伴い、仕入れに係る費用が膨らんだこと。

【生じた課題への対応方法】

- 安定供給が可能な養殖魚を原材料とした。
- 生産者による試験販売の結果を踏まえ、商品と保冷剤をアルミ保冷袋に同梱することで、約2時間冷凍状態を維持できるパッケージに改良した。
- 商品に封入するリーフレットに島野浦島の紹介を掲載し認知度向上を図った。

- 集落、コンサルティング会社が協力し、卸先に価格を上げることを了承してもらった。

【取組の効果】

- 「鯛茶漬け」「カンパチ茶漬け」「真鯛生ハム仕立て」「鯛たたっこ」を商品化した。
- 県内外の8カ所で常設販売を開始しており、定期的に受注している。
- 島内でも販売を行っており、島の土産品として認知されてきている。
- これまでは、事業者単位での商品開発が当たり前だったが、集落全体で当該商品化開発を行ったことにより、事業者相互の協力体制が生まれた。今後新たな商品を共同開発することも検討している。

【今後の展望】

- 販路拡大に伴う受注数増加に対応するため、製造販売体制の改善を図る。

【対象となった経費】

- コンサルティング業務委託料、試作に係る検査費用、備品購入費、加工場の維持管理費

成功のポイント

- 集落、コンサルティング会社、市、県等が連携し事業を実施したこと。
- 生産者が自ら店頭に出立ち、試験販売を行ったことで、顧客のニーズを踏まえたパッケージへの改良に繋がったこと。

販路拡大

イワガキの養殖及び販路拡大

幣串漁業集落(鹿児島県出水郡長島町)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 51世帯

○取組の概要

離島地域の漁業者の安定収入を目指し、他の漁業との兼業が可能であるイワガキの養殖及び販路拡大に取り組んだ。



【本取組に至った経緯】

- 年間の漁業において、漁獲が少ない夏季に出荷できる魚種が必要であった。離島地域で盛んなアオサ養殖など、主要な漁業の繁忙期と被らない魚種を模索し、地元の種苗センターが生産しているイワガキの試験養殖を獅子島4漁業集落で開始した。

【取り組む際に生じた課題】

- イワガキの試験養殖に取り組んできた中で、マガキと比べ、一般的ではないイワガキの販路構築や販売する際に殺菌を行う必要があった。

【生じた課題への対応方法】

- 島内向けの販促活動を継続し、イベントや飲食店へのサンプルやアンケートを実施した。また、既存の海水殺菌装置を活用し、出荷体制を整えることができた。

【取組の効果】

- 継続した島内向けの販促活動や離島漁業再生支援交付金事業での活動を通して、島内の理解を得つつ、漁協や町と連携し、サンプル発送やイベント参加など、販路拡大の取り組みができるようになった。

【今後の展望】

- 漁協経由での販売体制を構築し、離島漁業再生支援交付金事業から漁業者それぞれが自立して養殖・販売できる体制の構築を目指す。

【対象となった経費】

- 種苗代、作業代(人件費・傭船料等)、電気代、検査代・販促活動費(人件費・資材代・傭船料)、視察研修旅費

成功のポイント

- 地元の種苗センターが種苗生産を継続していることで、種苗の導入が容易であった。
- 海水殺菌装置を獅子島4漁業集落で導入し、比較的容易に出荷体制が構築できた。
- 漁協や町、県の協力体制により、活動がスムーズであった。

魚食普及

屋久島での魚食普及活動

安房漁業集落(鹿児島県屋久島町)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 41世帯

○取組の概要

集落の女性構成員が中心となり、地元で獲れる豊かな水産資源の魅力再発見と、次世代への魚食文化の継承・定着を目指して実施した普及活動です。



【本取組に至った経緯】

- 食生活の多様化に伴い、「魚離れ」や、魚の調理に対する「敬遠意識」が顕著になっていたため、幅広い世代を対象に、「食育」「郷土学習」「体験学習」を組み合わせた複合的なプログラムを展開した。

【取組の効果】

- 年間14回程度の授業を実施
アンケートでは「魚料理のレパートリーが増えた」や「包丁を使わないので3歳児も一緒にできた」といった声が寄せられた。

【取り組む際に生じた課題】

- 幼稚園児から中学生、大人まで幅広い年齢層を対象とするため、それぞれの発達段階や興味関心に合わせた教材や指導法の開発が必要となった。

【今後の展望】

- 指導スキルの継承と講師の育成を促進することで、活動の持続性と安定性を高める。

【生じた課題への対応方法】

- 学校や団体の要望に応じて「観察・解剖(イカ解剖など)」「郷土座学」「料理実践」などのプログラムを柔軟に組み合わせた普及活動を行った。

【対象となった経費】

- 魚代

成功のポイント

- 幼児から大人まで対応した幅広い授業内容
- 漁師と一緒に魚食普及を行い漁法や魚に触れる体験など多くのことが学べる場を提供し「魚」に興味を持つ場を増やしたこと。
- 捌き方など難しく手間のかかる工程を省き、手軽に行う魚料理を普及させたこと。

流通体制 改善

選別台・クーラー運搬台の作成

笠利地区漁業集落(鹿児島県奄美市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 40世帯

○取組の概要

共同出荷の鮮度保持及び作業効率向上のため、ステンレス製の選別台やクーラー運搬台を作成した。



【本取組に至った経緯】

- FRP製の選別台は剥離が見られ鮮魚の品質管理に支障をきたしていた。また、クーラー運搬台は木製で、衛生面や作業効率の改善が課題になっていた。

【取り組む際に生じた課題】

- 優良衛生品質管理市場・漁港の認定に適した資材の選定。

【生じた課題への対応方法】

- 関係機関へ相談し、ステンレスを採用した。

【取組の効果】

- 鮮度保持の徹底により平均魚価が向上した。

平均魚価 令和2年度 842円/kg
令和6年度 1,104円/kg

【今後の展望】

- 共同出荷の鮮度保持に継続して取り組むことで、魚価平均1,178円/kgを目指す。

【対象となった経費】

- 資材費、人件費

成功のポイント

- 鮮度保持への取組により魚価が向上することを構成員がよく理解し、団結して取組を行ったこと。
- 作業場所の提供など地元漁協の協力が得られたこと。
- 共同出荷によるコスト削減などにも合わせて取り組んだことで相乗効果が得られたこと。

流通体制 の改善

海水冷却装置を使用した冷却効果比較試験

えらぶ漁業集落(鹿児島県和泊町)

実施期間: 令和6年度

漁業世帯数: 35世帯

○取組の概要

既存の海水冷却装置の利用促進を図るため、シビ(キハダ若魚)を対象に、①従来の水氷を用いた出荷方法と、②冷却海水を用いた水氷による冷却効果の比較試験を行った。



【本取組に至った経緯】

- 沖永良部島漁協においては漁獲物のうち約7割が島外(鹿児島及び沖縄)へ出荷されていることから、広域浜プラン実証調査事業の取組の一つとして、海水冷却装置を導入したが、利用率が低い状況であった。そこで、集落事業の一環で同装置の活用による従来の出荷方法との冷却効果の比較試験を行い、利用率の向上を図ることとした。

【取組の効果】

- 海上輸送による鹿児島市場への出荷を想定して、3日間、定時的に水氷温度及びシビの体表面温度を計測した。冷却海水を用いることで、従来の水氷と比較して、冷却温度(0℃)になるまでの時間が短縮できることが分かった。また、氷の融解が抑えられることで、水氷の塩分濃度を保ち、従来の方法よりも低温で冷却ができることや、出荷にかかる氷の量及び経費負担を抑えられる可能性が示された。

【取り組む際に生じた課題】

- 冷却効果が発揮されるためには、漁獲時における活け締めや脱血等、鮮度を保つ作業を行うことを前提としているが、漁業者によってバラつきがあった。

【生じた課題への対応方法】

- 町で作成した鮮度保持に関する手引きをもとに、漁業集落の会合等において各漁業者へ効率的な鮮度保持手法の普及を行い、意識改革を図った。

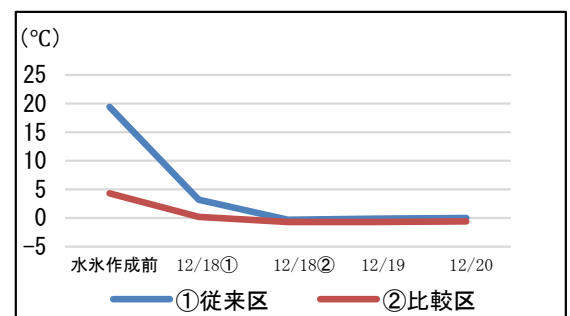
【今後の展望】

- シビ以外にも、魚種や季節ごとに応じた冷却方法の検討を図る必要がある。

【対象となった経費】

- シビ買上料、加工場使用料、海水冷却装置使用料

水氷温度の推移



成功のポイント

- 漁業者の鮮度保持に対する意識の変化
- 漁協、漁業者、行政が協力し合い、取り組めたこと。

流通体制 改善

鮮魚輸送経費削減対策

石垣市漁業集落(沖縄県石垣市)
実施期間: 令和2年度～令和6年度
漁業世帯数224世帯

○取組の概要

近年の航空便の減便等の影響に対応するため鮮魚BOXを作製し、船便での海上輸送を図った。



【本取組に至った経緯】

- これまで、沖縄本島への鮮魚の輸送は空輸していた。しかし令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症の航空便減便に伴い、空輸に影響が出た。

【取り組む際に生じた課題】

- 輸送方法・鮮度維持

【生じた課題への対応方法】

- 鮮魚BOXを作成し、主にまぐろ類を海上輸送し、鮮度と市場での反応を確認した。

【取組の効果】

- 航空輸送の沖縄本島への輸送費は重量当たり90円(税抜き)/kg+梱包資材費がかかるのに対し、海上輸送の場合18円強(税抜き)/kg(変動あり)と、水産物の大量輸送時等の流通経費を大きく削減する事が出来た。

【今後の展望】

- 島外へ出荷する鮮魚類について、輸送コスト削減、鮮度維持を図るため、効果的な輸送体制の確立に取り組む。

【対象となった経費】

- 輸送BOX作成費

成功のポイント

- これまでの慣習にとらわれないこと。
- 輸送時間に余裕のある鮮魚の選択

ナマコ類種苗放流

種苗放流

勝連漁業集落(沖縄県うるま市)

実施期間: 令和2年度～令和6年度

漁業世帯数: 145世帯

○取組の概要

勝連漁業集落地区では、減少が著しいナマコ類について、種苗生産に取り組み、生産された種苗の放流を目指した。



【本取組に至った経緯】

- 様々な要因で資源が著しく減少した。ナマコ類の種苗生産に取り組んで、種苗放流することで、資源の回復を目指すことになった。また、ナマコが海底に堆積した有機物を食べて水質浄化に貢献する特性を活かして漁場の改善を目的に放流活動を行った。

【取り組む際に生じた課題】

- 個体の性別の判断がつかない。
- 受精に確実性がない。

【生じた課題への対応方法】

- 排卵、受精に確実性がないことから、数をこなすことや海水の生育環境の管理を徹底する。

成功のポイント

- 沖縄県水産海洋技術センター、(株)サウスプロダクトの協力のもとナマコ採苗生産の技術指導(親ナマコ採卵、幼生飼育方法、飼育器材準備)を受け、円滑に作業を行う事ができた。
- 外見から雄雌の個別判断が出来ず、受精に確実性が無い為、できるだけ大きな親ナマコの個体を多く採取する事で確実性を高めた。

【取組の効果】

○ 放流数

令和2年度	クロナマコ	5, 100千個
令和3年度	アカミシキリ	7, 300千個
	クロナマコ	10, 800千個
	イシナマコ	12, 400千個
令和4年度	アカミシキリ	500千個
	クロナマコ	4, 260千個
令和5年度	アカミシキリ	1, 500千個
	クロナマコ	8, 200千個
令和6年度	クロナマコ	15, 500千個

- 潜水漁やモズクの収穫の際に、小さめのナマコを目撃は増えている。

【今後の展望】

- 引き続き、減少しているなまこ類について、種苗生産、種苗の放流に取り組む、資源回復を目指す。

【対象となった経費】

- 人件費、傭船料、えさ代、施設使用料

離島漁業新規就業者特別対策事業交付金

仙法志漁業集落(北海道利尻町)
実施期間:令和3年度～令和6年度

○取組の概要

漁業種類:磯根漁業(ウニ・コンブ等)

年齢(事業開始時):24歳

リース物件:漁船(0.4t)、漁具等 (リース物件写真:漁船、漁具)



【集落・地区の現状】

- 仙法志集落では漁業者の高齢化及び減少が深刻化しており、後継不足が大きな課題となっている。
- そのことから、後継者を獲得育成するため、漁業就業者フェアなどに参加するなど、後継者対策を行ってきたが、船や漁具の取得等、初期投資が多にかかることが課題であった。

【新規就業に当たり生じた課題】

- 漁船や漁具を取得しても、ひとりで操業を行う磯根漁業の特性上、すぐに満足に漁業活動が出来ず、漁の仕方や操船技術等を学ぶ必要があった。

【生じた課題への対応方法】

- 磯根漁業はひとりで操業をするため、危険も多く伴うことから、集落内のベテラン漁業者が漁の仕方や浜のルール、操船技術等を新規就業者へ1年間の指導を実施。

【取組の効果】

- 当交付金を活用したことにより、新規就業者の初期投資が抑えられ、新規着業希望者の増加及び地域への定着が図られた。
- リースする漁船を既存漁業者と同一規格の漁船にすることにより操船技術等の継承及び習得を円滑にした。

【今後の展望】

- 今後も新規就業者に対し、当交付金の紹介及び活用を積極的に行い漁業就業者の増加へ繋げるとともに、漁業生産高の増大を目指すことで、活気ある漁業集落の構築を期待する。

【対象となった経費】

- 漁船(磯船)リース料
船外機リース料
漁具(ウニ竿、コンブ竿等)リース料
漁船登録料

成功のポイント

- 漁船や漁具のリース料が支援されることで、新規就業者の初期投資を抑えることができ、さらに集落内の漁業者が指導等を行うことで、新規就業者の安全性が確保され、漁のコツを教わることで水揚げの増加にも繋がる。さらに、集落内の漁業者との交流も増加することで、地域への新規就業者の定着が促進される。

離島漁業新規就業者特別対策事業交付金

父島漁業集落(東京都小笠原村)
実施期間:令和元年度～令和3年度

○取組の概要

漁業種類:かつお・まぐろ釣り漁業など

年齢(事業開始時):33歳

リース物件:FRP漁船(9.7t)



【集落・地区の現状】

- 本集落では漁業就業者の確保に力を入れており、島外から就労希望者の積極的な受入れを行い、今日まで多数の独立者を輩出してきた。
- 浜プランに揚げた経費節減などの活動にも積極的に取り組んでいる。

【新規就業に当たり生じた課題】

- 島内での漁船確保が困難だったため各地の造船所等に照会をかけたが、調達まで相当の時間を要した。

【生じた課題への対応方法】

- 漁船の調達にあたり、漁法や気象環境が酷似する沖縄及び南西諸島での操業実績がある漁船を集中的に探した。
- 調達に時間を有したが、改造期間を短縮できたため、大きな遅れもなく着業することができた。

【取組の効果】

- 本事業における支援により、独立起業から軌道に乗るまでの間、金銭的・精神的負担の軽減に大いに効果があった。
- 浜プランや基本交付金等への活動に積極的に取り組むことにより、集落への溶け込みも容易であった。

【今後の展望】

- 若手漁業者の模範として引き続き活躍を期待するとともに、今後は漁業者を養成する親方として、就労希望者の積極的な受け入れに努め、漁業集落の更なる活性化に貢献していく。

【対象となった経費】

- 漁船リース料(船体及び附帯設備等)

成功のポイント

- リース漁船を環境が酷似した地域から探すことにより、漁船準備に要する期間を短縮。
- 集落活動等への参加により、新規漁業者の定着を後押し。

離島漁業新規就業者特別対策事業交付金

小値賀漁業集落(長崎県小値賀町)
実施期間: 令和3年度～令和6年度

○取組の概要

漁業種類: イサキ釣り、延縄、引縄など

年齢(事業開始時): 38歳

リース物件: FRP漁船(8.5t)



【集落・地区の現状】

- 一本釣り・延縄・曳縄など様々な漁業が盛んに営まれている地域であるが、年々高齢化や後継者不足により、漁業者が減少している。

【取組の効果】

- リース料の支援を受けることができたため、初期投資を軽減でき、新規就業者の定着を実現した。

【新規就業に当たり生じた課題】

- 漁労技術の不足や、経験が浅いため思うような水揚げ、収入に繋がらない。

【今後の展望】

- 漁労技術の向上に努め、活動組織への自発的な参加により、若手漁業者のリーダー的存在になることを期待している。

【生じた課題への対応方法】

- 小発動連合会および青年部に参加し、組織活動や視察研修への積極的参加により、漁労技術の向上や同業者間の情報共有に繋がるよう図った。

【対象となった経費】

- 漁船リース料

成功のポイント

- 新規就業者は初期投資がかかるため、リース料の支援を行うことでコストを抑えることができた。
- 組織活動への参加により情報交換の場を提供し、漁業に対する経験を増やすことが、新規就業者の定着に繋がった。